

げに大聖の御教の
いとも貴き一路のみ。

四季

松村芳仙

春

青空から落ちる春の光は
目も眩むばかりに明い
春の軟かな光は
細道の左右を若草で色どつて居る
地にも微笑の心持が溢れてゐる。

夏

夏の日の激しき光
四邊はかつとしてゐる
草の葉はむさされて
風は輝いて

廣い天地は沈黙と吐息とを産んで居る。

秋

晴れた秋の日和の濃い蒼空
白い雲が雲母のやうに輝いてゐる。
九月の日は明るかつた
夏よりも明い
物の色に滲入る光ではなく
物の表を軽く動かす光である。

冬

弱い冬の陽は
時々雲間を洩れて來る
空氣は冷たいけれど
黄色い光線が
ほんのりと窓の障子に映る。(終)

人間劇場

佐藤翠嵐

人生は一つのシアターである——
無表情な人間社會の舞台上に
踊る踊子、それが人間の姿なのだ